

10. 動機尺度 C-RAI 日本語版の信頼性・妥当性の検証：

精神障がい者のキャリア形成支援への活用

- 湯沢 由美 (医療法人丹沢病院)
八重田 淳 (筑波大学大学院人間総合科学学術院)
行實 志都子 (神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部)
山口 創生 (国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所) ※追加
飯干 諒祐 (医療法人丹沢病院)

【研究目的】

本研究の目的は、精神疾患を伴いながら生きる人が、自らの潜在能力を発揮してライフキャリアを築くための支援に活用することを目指して、動機の自律性を測る為の包括的な尺度である「Comprehensive Relative Autonomy Index (以下、C-RAI)」¹⁾を日本語に翻訳し、精神障がい者リハビリテーション分野の研究や実践において用いることが出来るように、その信頼性と妥当性を検証することである。

<自律性の定義>

自律性は、自己決定理論において、内発的動機付けに不可欠なものであり、自己統制や自己支配の感覚のことであり、自己に関連することを自分自身で決定していると感じていることを表す²⁾³⁾。

【研究の必要性】

自己の潜在的な可能性を十分に活用し、自己実現することは、人生における重要な課題である⁴⁾。しかしながら、精神疾患を伴う人には、その発症と治療のプロセスにおいて自己効力感が失われ、自分自身で有意義な活動を始められない場合がある。そのため、動機の自律性を尊重しながら活動への参加を促す必要がある⁵⁾。また、精神疾患によってもたらされたセルフスティグマや、症状の変化は動機が揺れる要因となる⁶⁾⁷⁾。したがって、精神疾患を伴って生きる人が、その発症という転機を乗り越え、社会の中で再び自分らしい役割を得て、自らの潜在能力を発揮するためには、発症の過程で失った社会活動参加への動機の自律性を取り戻すための支援が必要である。そのため、精神科リハビリテーションにおいて、効果的な自律性促進の支援方法を明らかにすることが不可欠であるが、本邦におい

ては、精神障がい者に用いることが出来る、動機の自律性を測る尺度はなく、その開発が必要となっている。

【研究計画】

1. C-RAIの精神科リハビリテーションへの活用

C-RAIは、“私がXをするのは、～だからだ”というように、Xに必要な項目を入れてその理由を尋ねることで、領域に縛られずに動機の自律性を測定するために開発された指標である。予備調査では「体調管理する」「働こうとする」「訓練や教育を受ける」「社会（職場・家族・所属グループ・通所する事業所等を含む）の中で役割を担う」ことをXに挿入した。本調査では計画を変更し、より精神科リハビリテーションの目的を包括する語として「自分らしく生きようとする」「働こうとする」の2語をXに挿入した。

2. C-RAIの翻訳

尺度の翻訳は、原著者および出版社の使用許諾を得て、デュアルパネル法の手順を参考にして行った。最初に、翻訳者パネル（3名）で日本語への翻訳を行った。次に一般パネルに、翻訳した項目について日本語表現の精査を依頼した。翻訳者パネルと一般パネルとの間でのすり合わせを行う際、作成された質問項目の表面的妥当性の検討を行い、項目を決定した。最後に、A病院デイケアの通所者に質問項目への回答を依頼し、スムーズに回答ができるかを確認した。

3. サンプルング

「働こうとする」のサンプルングは、神奈川県内の就労移行支援事業所に協力を依頼した。「障害福祉情報サービスかながわ」に登録している事業所のうち、精神障がい者を対象として就労移行支援事業を行っている事業所177件（2021年9月19日現在）に、研究協力依頼書を送付し、はがき返送による協力意思確認と電話での説明を行い、協力を得られた30機関に調査票を送付した。サンプルング基準は、「精神障害者手帳を所持していること」、または、「精神科通院があること」とした。「自分らしく生きようとする」のサンプルングは、日本精神科病院協会に登録された、東京近郊4県（東京・神奈川・千葉・埼玉）のデイケア・ナイトケアのある精神科病院122件及び、同都道府県内における国公立の精神科デイケアのある機関10件（2021年9月19日現在）に、研究協力依頼書を郵便またはメール等で送付し、「働こうとする」と同手順で協力を依頼した。協力を得られた29機関に調査票を送付した。デイケア通所者は全て精神科通院のある患者であるため、サンプルング基準は、「認知症患者を除く、デイケア通所者」とした。回答者には謝礼として300円のクオカードを送付した。

4. 調査票

翻訳された C-RAI の他に、類似尺度として、日本語版 Satisfaction With Life Scale (SWLS)⁸⁾、日本語版 Positive and Negative Affect Schedule (PANAS)⁹⁾、日本語版 Sense of Coherence (SOC)¹⁰⁾を用いた。さらに、「自分らしく生きようとする」の対象者には、本人の症状や特徴に関する情報を得るために、日本語版 Autism-Spectrum Quotient (AQ)¹¹⁾と、Global Assessment of Functioning (GAF) を用いた。

5. 統計ソフト

データ分析には、SPSS (IBM 社, Ver28)を使用し、因子分析は Mplus (Muthén & Muthén, Ver8)を使用した。

6. 倫理的配慮

本研究は、医療法人丹沢病院研究倫理委員会による承認を受けて実施した (承認番号: 2021-10-25)。回答者へは、研究者または支援機関の職員が、書面の提示と口頭によって、研究目的、事例提供の同意や撤回が自由であること、研究方法及び協力事項、利益と不利益、プライバシーの保護、研究の内容を閲覧できること、研究結果の学術的な場での公表、回答をもって同意したとみなすことについての説明を行い、同意者のみに回答を依頼した。

【実施内容・結果】

1. サンプルの基本属性

表1. サンプルの基本属性

		働こうとする (n=218)	自分らしく生きようとする (n=344)
性別	男性	135	205
	女性	83	137
	未回答	0	2
年齢	幅	19歳～61歳	20歳～81歳
	平均	35.6歳	50.6歳
	未回答	2	2
精神保健福祉手帳	あり	193	276
	1級	3 (1.6%)	12 (4.3%)
	2級	115 (59.6%)	202 (73.2%)
	3級	70 (36.3%)	59 (21.4%)
	未回答	5 (2.6%)	2 (0.7%)
	判別不能	0 (0%)	1 (0.4%)
	なし	25	67
未回答	0	1	

精神保健福祉手帳()内は、手帳あり数に対する割合

「働こうとする」は、223名、「自分らしく生きようとする」は、352名の質問紙が回収された。①精神障害者手帳かつ精神疾患なしのサンプル、②C-RAIの回答において、半分以上回答されていないサンプル、③全体の回答において、半分以上回答されていないサンプルを除外し、「働こうとする」は、218名、「自分らしく生きようとする」は、344名の回答を分析した。統合失調症、うつ病、躁うつ病、適応障害、不安障害、強迫性障害、アルコ

ール依存症，発達障害，その他の診断名が報告された。「自分らしく生きようとする」の回収サンプルのAQ値は6から41，GAF得点は20から95の範囲であった。

2. 確証的因子分析結果

「働こうとする」「自分らしく生きようとする」「全データ（働こうとする）＋「自分らしく生きようとする」の3種の確証的因子分析を行ったところ，適合度指標から，原版と同因子モデルのモデル適合は否定された。

3. 探索的因子分析結果

分析の過程において，「働こうとする」は2項目，「自分らしく生きようとする」は4項目，「全データ」は1項目をC-RAI原版の質問項目から除外した。C-RAI原版の6因子構造に対して，「働こうとする」，「自分らしく生きようとする」，「全データ」は，それぞれ4因子構造となった。それぞれの因子構造において，RMSEA，CFI，TLI，SRMRなどの指標は適切な値を示した。 α 係数も基準以上の値を示した。

4. 類似尺度との相関分析結果

「働こうとする」「自分らしく生きようとする」「全データ」は，それぞれ，類似尺度として用いた日本語版SWLS，日本語版PANAS，日本語版SOCとの，弱い相関が確認された。これらの相関は，C-RAIの原版開発時に確認された相関関係と類似する結果であった。

尚，これらの詳細分析は，論文において具体的に示す予定である。

【考察と今後の課題】

確証的因子分析において，原版と同様の因子モデルでの適合指標は基準に満たなかったことから，C-RAI日本語版の精神科リハビリテーション利用における妥当性が否定された。しかしながら，C-RAI日本語版を用いた探索的因子分析によって導き出された3種の尺度は， α 係数の値が基準値を上回り，類似尺度との収束的妥当性の検証においても理論上祖語のない結果となったことから，一定の信頼性と妥当性が確認された。これら3つの尺度は，精神科リハビリテーション領域における実践や研究で，精神疾患を伴う人のリカバリーとキャリア支援に利用されることが期待される。一方，本研究ではC-RAIの質問項目のみを用いた検証であったことから，新たな質問項目を加えた精査を行い，より適切な尺度へと精錬していくことが必要である。尚，C-RAIの国際比較を行う際には，研究目的に応じて，原版の因子構造を用いて計算を行うことを推奨する。

【参考文献】

- 1) Sheldon KM, Osin EN, Gordeeva TO, et al : Evaluating the dimensionality of self-determination theory's relative autonomy continuum. *Personality and Social Psychology Bulletin*, 43(9), 1215-1238, 2017.
- 2) 西村多久磨 : 自己決定理論. (上淵寿,大芦治編著) 動機付け研究の最前線, 北大路書房, pp45-73, 2019.
- 3) Ryan RM, Deci EL : Self-regulation and the problem of human autonomy: Does psychology need choice, self-determination, and will?. *Journal of Personality*, 74(6), 1557-1586, 2006.
- 4) Šverko B, Super DE : The findings of the work importance study. (Super DE, Šverko B Eds.) *Life roles, values, and careers: International findings of the work importance study*, Jossey-Bass, pp349-358, 1995.
- 5) Mutschler C, Lichtenstein S, Kidd SA, et al : Transition experiences following psychiatric hospitalization: A systematic review of the literature. *Community Mental Health Journal*, 55(8), 1255-1274, 2019.
- 6) Braitman A, Counts P, Davenport R, et al : Comparison of barriers to employment for unemployed and employed clients in a case management program: An exploratory study. *Psychiatric Rehabilitation Journal*, 19(1), 3-8, 1995.
- 7) Russinova Z, Gidugu V, Bloch P, et al : Empowering individuals with psychiatric disabilities to work: Results of a randomized trial. *Psychiatric Rehabilitation Journal*, 41(3), 196-207, 2018.
- 8) 大石繁宏 : 幸せを科学する—心理学からわかったこと—. 新曜社, 2009.
- 9) 佐藤徳, 安田朝子 : 日本語版 PANAS の作成. *性格心理学研究*, 9 (2) , 138-139, 2001.
- 10) Antonovsky A : *Unraveling the mystery of health: How people manage stress and stay well.* Jossey-Bass, 1987. (アントノフスキー A, 山崎喜比古, 吉井清子 監訳 : 健康の謎を解く—ストレス対処と健康保持のメカニズム. 有信堂高文社, 2001)
- 11) 若林明雄, 東條吉邦, Simon Baron-Cohen, et al : 自閉症スペクトラム指数 (AQ) 日本語版の標準化—高機能臨床群と健常成人による検討—. *心理学研究*, 75, 78-84, 2004.

【経費使途明細】

使 途	金 額
尺度購入 (AQ) ×381	41, 910 円
研究協力謝礼 (クオカード※330 円×557+送料)	188, 100 円
郵送費 (研究協力機関の募集/封書・はがきの郵送やりとり)	46, 809 円
郵送費 (質問紙送付と回収, 謝礼送付等/封書・レターパック・ゆうパックの郵送やりとり)	84, 958 円
合 計	361, 777 円
大同生命厚生事業団助成金	400, 000 円

※差額 38,223 円を返還